**平成28年度第３回大阪府日本万国博覧会記念公園運営審議会緑整備部会記録《要旨》**

○日時　　平成29年2月21日（月）15：00～17：00

○場所　　万博記念公園事務所

○出席委員等　 中瀬部会長、中村委員、服部委員、山本委員

○事務局　　府民文化部副理事　ほか

＜自然文化園の森の育成について　説明＞

＜質疑応答＞

**服部委員**

目標とすべき森の将来像について、「人と自然のふれあいの森」というのはよいが、「自然豊かな森」は、今、生物多様性ということを言われているので、「生物多様性豊かな森」というような用語を入れた方がよい。

目標林として、夏緑樹林という言い方は落葉樹の林の中の自然林というのを強く指し、どちらかというとブナ林を指す。資料ではコナラ、クヌギ、アベマキなので目標林として夏緑二次林を目指すのか。また、クヌギ、コナラの大木林を目指すのか、里山的な二次林で20年から30年に1回伐採してローテーションするような森を目指すのか分かりにくい。

植栽について、夏緑樹タイプで埋土種子を使うとあるが、今まで万博公園で実験してきて結果はどうだったか。夏緑樹林の要素がたくさん入ってきているのであれば今後もそれを使えばいいが、上手くいっていないならば、苗を作って植えた方が早い。

階層構造を含めた植生調査のデータは基礎的な情報として必要。来年度からでも、ぜひ収集してほしい。

**事務局**

　　夏緑樹林については、兵庫県で実施している里山の夏緑樹林の高林管理をイメージしている。埋土種子については、万博公園に無い種が新しく入ってきていることを考慮して計画に記載させて頂いた。植生データについては今年度１カ所調査している。今後も引き続き調査していきたい。

　　目標設定での生物多様性については万博公園の生物多様性をどのように目指すか、ご意見を頂いて検討したい。

**中瀬部会長・服部委員**

　　生物多様性が上位の概念に上がってきているため、万博記念公園における生物多様性についてどのような戦略で進めていくのか目標などを今後議論しておく必要がある。

　**事務局**

　　生物多様性についての万博公園の定義について、今後ご意見をいただきながら方向性を検討していきたい。

**山本委員**

　　樹林管理について全体像が示されており、その中で照葉樹林タイプと夏緑

樹林タイプについて提示されているが、違いがよく分からないため、それぞ

れの樹林地について、周辺施設の状況や利活用に応じてその場所ごとに提案

する方が分かりやすいのでは。

　**事務局**

照葉樹林については、長期間かけて全体的なエリアを樹種の多様性や階層

構造を計画的に進めていくエリアと施設周辺の利活用のために樹木の密度調整を行うエリアに分けて目標を設定しているが、実際は利用の広がりに応じてエリアを絞って行うという考え方である。もう少し表現を補完させていただく。

　**中村委員**

　　伐採して明るい照葉樹林を目指すというイメージは分かるが、実際樹高

15m以下の樹木を伐採した際の想定が全く記載されていない為、もう少しイ

メージを具体化する必要があるのでは。樹高5ｍ以下の木を伐採する場合は

現在の万博公園内の下草の無い歩きやすい樹林地のイメージに近いと思う

が、樹高15ｍ以下の木を全て伐採した際のイメージがわかない為、その想

定が必要では。

　　また、同様に夏緑樹林の保全についても方針の記載があるが、それぞれの

樹林の現状について記載がないため、現状を教えてもらいたい。

　　それに加えて光環境の設定が重要では。

　**事務局**

　　照葉樹林については生育がいい所はそれほどないのが現状。樹林帯の中の方は生育が良いが、外側の部分が生育が悪いところが多く、場所によってだいぶ生育が違うため、伐採率なども考慮し光環境の設定を行ったうえで、今後取り組むべきことも明確にしたうえで場所ごとの特性に応じた考えを示したい。

**中村委員**

生物多様性については段々と多様性の中の質が問われていくと思う。万博

公園は単なる種の多様性としてはかなり多いところであり、北摂にはないものということで、少し変わった多様性を持っているため、そういった意味では多様性の中身について検討が必要である。目指すのは北摂の8掛けか7掛けくらいのものであり、北摂と同じものは出来ないことは認識が必要。

照葉樹林から夏緑樹林への樹種転換については、将来的目標としては水鳥の池の近くで大々的に行うことで良いと思うが、まずは現在多様な鳥が来るような場所で比較的小さな規模で一回試験的に実施し、結果を検証してから進めた方が良いと思う。

夏緑樹林の樹種変更の計画について、計画をたてることは容易であるが、実際行うとなると生育の早い樹種や先駆種等の伐採などを行い、必要な樹木の生育を助けていく必要があり、重点的な管理が必要となる為、その辺が本当にうまくいくのか検討が必要。

計画には15ｍ×15ｍの範囲で4つくらい伐るという案が示されているが、非常に生物の豊かなところと言うよりは太陽の塔の近くなども場所の候補に入れ、来年ぐらいデータを取ったりしながら場所を転換していくということでどうか。先ほどの明るくするといったイメージが実際どうなるかと言う件も含めて検証するのが良いと思う。

また、核森と言うのがあるが、万博公園では照葉樹の種子も非常にたくさん散布されているが、定期的に管理しないと種は散布されても発芽することが出来ないため、管理はかなり大変になるだろう。管理を考えていくことが大切。

**服部委員**

全体については基本的な方向として、照葉樹林部分と夏緑樹林部分を明確

に分けたのはいいと思う。ここの森の一番の問題は暗いということであると思うので、落葉樹林部分をきちんと管理していくというのは大変良いことだと思う。伐った場合にその部分に落葉樹の植栽が必要になってくると思うので、その苗木の準備なども必要では。出来るだけ北摂地域の苗木の確保を目標にしていくと良いと思う。

**中村委員**

先ほどの埋土種子に関連するが、苗木の種としては土の中にはシードソースがあり、生産の森などで水の管理などの管理をしながら、既存の埋土種子から苗生産というのもありなのかなと思う。ポット苗を苗圃などで育てる方法もあるとは思うが、単なるポット苗でなく、現場でつきやすい苗というのをそういった生産の森などの埋土種子を活用してつくっていくというのも一つの案かと思う。苗生産も重要だと思うので工夫してほしい。

**事務局**

苗生産については、園内で育てる場所やどこから苗をとってくるかなど色々検討しており、近場の万博の外周などで生育している実生なども確保して育ててやっていきたいと思う。

**中瀬部会長**

多様性については群落とDNAについて分かるようにきちんと提示したうえでどの多様性で議論するのかという話をしっかりキーワードを入れること。

PDCAを回そうとするとき目標設定をどうするかきちんと議論しておくべき。今後に向け、数値目標ぐらいはそろそろ議論を始めていった方が良い。

もっと若者に新たな発想で調査研究などをやってほしい。万博から新たなテーマを発信するというようなことを考えてほしい。

また、来年度以降、施工に入ったら来園者に整備のプロセスが伝わるような仕組みを検討してほしい。それも環境学習の一つになると思う。

＜日本庭園の新たな魅力創出について　説明＞

＜質疑応答＞

**中瀬部会長**

八景の名称については、アンケート調査の結果で右側のC案をメインにすることで全会了承。ただし木漏れ日の滝だけを読み替えることとする。

**事務局**

この中にある組み合わせを改めて報告する。また、以前より「万博の森(仮称)」として提案してきた森の名称についても、仮称を取り、「万博の森」として今後資料作成等を進めていきたい。

**中瀬部会長**

了解した。日本庭園の八景については事務局で整理のうえ、事務局で最終決定を行う。

＜閉会＞